

議会だより

第25号

令和元年第4回定例会

令和元年第4回定例会が、12月11日に開催され、諮問1件、条例5件、令和元年度各会計補正予算5件などが提案され、慎重に審議された結果、原案どおり賛成・可決されました。

諸般の報告

《議長諸般の報告》

○第63回町村議会議長会全国大会に参加

11月13日、第63回町村議会議長会全国大会が、東京・NHKホールで開催された。創立70周年記念式典では、永年功労者表彰と特別功労者表彰以外に、改革先進議会10団体が表彰された。本村議会も少しずつ議会改革の足取りを前に進めながら、議会の質の向上を図りたい。

《村長諸般の報告》

○上球磨消防組合消防本部新庁舎の供用開始

11月5日、熊本県議会議員、構成4町村の議会議長をはじめ、多数の来賓を迎えて供用開始式が行われた。庁舎等の改築工事は、平成30年8月1日から令和元年8月31日の工期で完成し、その後、高機能消防指令システムと救急デジ

タル無線の整備等が行われた。今後、旧庁舎の解体工事、訓練棟の改築工事、外構工事が

順次発注され、令和2年の秋頃に総合落成式が行われる見通し。



上球磨消防署新庁舎完成の全体イメージ

○電子母子手帳アプリサービスの運用開始

妊娠・出産・子育てをサポートする電子母子手帳アプリサービス「みずかみさくらっこ」の運用を開始した。スマートフォン、タブレットなどに子育て支援情報を幅広く配信し、本村の子育て支援の更なる充実を図りたい。

○台湾基隆フェア観光物産展に参加

11月16日から17日の2日間、台湾の基隆市において開催され、今回が4回目。本村のほか八代市、氷川町も参加した。本村からは無農薬栽培のうる



スマートフォンの画面イメージ



焼酎を試飲する台湾の人々

ち米、栗の洪皮煮、栗パイ、焼酎等を販売した。今後も海外を視野に入れた販路開拓、村のPRに努めたい。

○第8回公認奥球磨ロードレース大会

1月19日に男女別6種目で開催。ハーフマラソン招待選手を含め500名以上のエントリーがある。レースの実況についてはインターネットライブ配信を行い、スマートフォンやパソコンから視聴できるようにするなど、さらなる視聴者の獲得を増やし、奥球磨の知名度アップ、地域の活性化に努めたい。2月1日には、15時35分から録画放送も予定されている。



スタート直後下り坂を疾走するランナー

〈諮問〉

○人権擁護委員候補者の推薦

人権擁護委員に岩野川内地区の小川ひとみ氏が選任され、全員賛成で同意した。任期は令和2年4月1日から3年間。

〈条例〉

○水上村印鑑条例の一部を改正する条例の制定

水上村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定

水上村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定

地方公務員法及び地方自治法の改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定

水上村地域振興支援事業基金条例の制定

水上村災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定

熊本県市町村総合事務組合規約の一部変更

〈予算〉

令和元年度水上村一般会計補

正予算(第5号)

歳入歳出予算の総額に9,640万円を追加し、総額を34億4,475万円とするものです。

歳出の主なものは、ふるさと納税返礼品関連553万円、ふるさと応援基金積立金1,050万円(※1)、水上村地域振興支援事業基金積立金1,000万円、ふるさとマイホーム祝金200万円、※2全国高等学校選抜自転車競技大会負担金200万円(※2)、災害復旧工事5,170万円などを追加計上しました。

※1 ふるさと寄付金に大幅な収入増が見込まれるため、当初のふるさと寄付金歳入予算300万円から増額補正したもの。



※2 北九州市教育委員会と水上村教育委員会の共催による全国高等学校選抜自転車競技大会に係る負担金。種目はロード競技とトラック競技に分かれ、開会式とロード競技が本村内で実施される見込み。(開始期日は令和2年3月17日(火)。

令和元年度水上村国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第2号)



令和元年度水上村簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算の総額に120万2,000円を追加し、総額を3億2,614万5,000円とするものです。

令和元年度水上村介護保険特別会計補正予算(第3号)

歳入歳出予算の総額に200万円を追加し、総額を3億7,699万4,000円とするも

のです。

令和元年度水上村簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算の総額に200万円を追加し、総額を3,596万2,000円とするものです。



令和元年度水上村下水道事業特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算の総額に61万8,000円を追加し、総額を3,794万5,000円とするものです。

いずれも審議の結果、原案のとおり可決されました。

〈その他〉

○交通事故に係る損害賠償の額を定めること

○継続審査申出書

大規模災害・大規模火災にどう対処するか

沖縄県消防指令センターを視察

11月15日から17日にかけて、令和元年度上球磨消防組合議会議員研修が実施された。初日は、昨年10月31日未明に発生した火災で、正殿等主要部分が消失した首里城を視察。現場はいまだ焼失当時のままであり、大量のがれきに囲まれていた。現場検証は当分の間続くとのことで、復旧にはまだまだ長い道のりとなりそうだ。



がれきに囲まれた首里城



翌日は、沖縄消防指令センターを視察。沖縄県の26団体36市町村が共同で指令センターを整備しており、費用の削減、大規模災害に強いネットワークの構築、職員の有効配置による現場体制の強化など、離島や小規模組合が多い沖縄では組合単独の整備に比べてメリットが大きいとの説明があった。

上球磨消防組合の消防広域化については、過去に議論を重ね、最終的には見送った経緯があったが、近年多発する大規模災害にどう対処するのか、また人口構造の変化にともない適正かつ機能的な消防力はどの程度かという観点からも、定期的に検討していく必要があるのではないかと感じた。



沖縄県指令センターの指令室内

報告者：上球磨消防組合議会議員 米本宗徳

一般質問

考えを質す!



山崎 隆浩 議員

Q 「フリー Wi-Fi」スポットの必要性は

A 物産館とキャンプ場については必要

問 本村の公衆無線LANの現状と「フリーWi-Fi」としての利用は。

答 田代総務課長 平成30年度に避難勧告発令時の避難所における通信環境を確保するため、避難所9箇所を整備。令和2年度に古屋敷体育館の耐震改修後、更に1台整備予定。

また、現在の設備を「フリーWi-Fi」として利用するのは可能だが、青少年育成の観点から、避難時にパスワードを入力してのみ利用可能と限定している。
問 観光客や村民の利便性向上を目的とした、「フリーWi-Fi」を整備する考えは。

答 川俣産業振興課長 物産館やキャンプ場に整備が必要と考えている。整備運用について、株式会社みずかみと協議を重ねる予定。また、石倉交流施設・山の幸館・元湯温泉施設・あめん

ぼー館など、電波の範囲を考慮し、費用対効果を含め検討したい。

答 堤田教育課長 スカイヴィレッジについても、時代に

沿ったネットワーク整備がリーダーやファンを増やすこと

にもなるので、関係課と協議し情報を共有していきたい。

「用語の説明」「フリーWi-Fi」とは公共の場で誰でも利用できるように無料で開放されている無線LANサービスのこと。スマートフォンやタブレットで高速インターネット通信が無料で利用できる。

教育利用

全国の約9割の学校が避難所に指定

タブレット端末等をWi-Fiでつなぎ、ICTを活用した学習活動等を実施

観光利用

災害時に、滞留者や帰宅困難者などが生じ得る

旅行先等でWi-Fiにつなぎ、観光地、食事、地図等の情報収集や、旅先の体験をSNSで発信

Q

中高生合宿に対する

入湯税免除の考えは

A

現在は考えていない

問 入湯税の目的と考え方は。

答 幸野税務住民課長 本村税
条例の中に「入湯税は鉱泉
浴場における入湯に対し入湯客
に課する」となっている。また、
普通税と違い、観光施設や消防
施設の整備を行うための財源と
して、温泉旅館や温泉のある民
宿に泊まれた方が納めなけれ
ばならない目的税である。

問 学校教育上の見地から行わ
れる行事等について入湯税
免除規定を設けている自治体も
あると思うが、中高生の合宿など
に関し免除規定を定めていると
ころは。

答 幸野税務住民課長 本村で
は設けていない。修学旅行
や教育上の見地から行われる行
事等で免除規定を設けてあるの

は、県内で人吉市を含め14自治
体がある。特段合宿に対して定
めているところはない。

問 宿泊施設から合宿に伴う料
金設定が厳しいと伺うこと
があるが、宿泊費補助額はそのま
まで、入湯税が免除になると利益
確保にもつながると思うが、中高
生合宿の入湯税免除の考えは。

答 中嶽村長 物価の高騰や消
費税増税、入湯税について
の要望もあり、宿泊料金を50
0円増額した。また、平成8年
から平成24年からの5年間、
施設整備補助事業を実施してお
り、行政と事業者が一体となつ
て産業振興を図っていくべきと
考えており、負担をするときは
どちらも負担をする基本スタン
ドから今のところ入湯税免除は
考えていない。

議会を傍聴してみませんか

次回の定例議会は3月です

(手続は住所・氏名を書くだけです)

詳しくは議会事務局 ☎ 44-0319 まで

議会改革のキーワードは「開かれた議会」

～ 議会活性化特別委員会を初開催 ～

10月21日、議会活性化特別委員会を招集し、議会改革の必要に至る時代背景、議会改革の進め方、改革の3本柱、本村議会が取り組む検討項目について協議した。

また、9月定例議会において提出された「議員定数条例改正案」は、議会改革と議員定数については関連が深いため、本特別委員会に付託※1)されている。今後、議員定数についても同時に議論していきたい。なお、経過については、できる限り村民の皆さまに公開していく予定。

※1 委員会付託とは・・・議案の審査の場所を本会議から委員会に移すこと



○「議会活性化特別委員会」とは？

6月の令和元年第2回定例会において新設した特別委員会。「開かれた議会」に向かって、村民の信頼が得られる議会改革を実践することを目的としている。定数は議長を除く9名。

(小野頼年委員長・山崎隆浩副委員長)

○「開かれた議会」とは？

福祉や環境など特定の政策を施行するものではなく、「住民に対して」開かれているというところにポイントがあります。

その本質を考える上で、先進事例を分析していくと、構成する要素として以下の3つの事項が共通しています。

○「改革の3本柱」

①情報共有	②住民参加	③議会機能の強化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事録 ・ 議会映像 ・ 審議資料 ・ 議案に対する議員個人の賛否 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本会議の傍聴 ・ 委員会の傍聴 ・ 議会報告会 ・ アンケート など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会権限の確立 ・ 質疑形式の見直し ・ 議会事務局のサポート体制の確立 ・ 運営ルールの整備 など

①情報共有・・・だれと情報共有？

議会活動、特に政策決定過程に関する情報を積極的に公開し、「住民と共有する」ことを言います。具体的には、議事録や議会映像に加え、審議資料や議案に対する議員個人の賛否などを、広報だけでなくインターネットでも公開します。議会の活動内容と住民にわかりやすく「見える化」することが改革の大前提となるからです。

②住民参加・・・議会へ住民が参加？

議会が行う活動に、住民が参加することを言います。具体的なものとしては、議会で行われる本会議や委員会の傍聴やその環境整備などです。また議会報告会やアンケート調査など、議会が能動的に行う住民参加の手法もあります。

③議会機能の強化・・・どんな機能を強化？

二元代表制下で、議会に求められる役割を果たすために必要な条件を整備することを意味します。具体的には、議会権限の確立、質疑形式の見直し、議会事務局のサポート体制の確立、運営ルールの整備などがこれにあたります。

以上の3本を主要なテーマとして、今後の議会改革を推進していきます。

林業の成長産業化に向けて

～ 森林・林業・林産業活性化九州大会に参加 ～

10月29日、長崎市民会館文化ホールにて「森林・林業・林産業活性化九州大会」が開催され、熊本県ブロックからは117名（本村議会議員2名を含む）の関係者が参加した。

九州大会については、2年に一度、九州各県を持ち回りで開催されており、当日は基調講演と事例発表が行われ、今後の森林管理、森林資源の利活用、県産材住宅の普及などについて情報共有が行われた。

なお、全国規模では「森林・林業・林産業活性化促進地方議員連盟」が結成されており、本村議会も加盟している。本村議会の役員構成については下記のとおり。

○水上村森林・林業・林産業活性化議員連盟

会長 杉野 久志 議員
副会長 尾前 武志 議員
事務局 山崎 隆浩 議員



林活議連九州大会の様子

公共施設のあり方に課題はないか

～ 公共施設マネジメントを学ぶ ～

11月19日、上球磨正副議長会主催による上球磨町村議会議員研修会が、あさぎり町商工コミュニティセンターで開催され、東洋大学客員教授の南^{みなみ}学^{まなみ}氏から「公共施設マネジメント」について講演が行われた。

当日は、上球磨4町村の議会議員だけでなく、役場の課長級、施設管理者なども講演に出席し、これからの公共施設のあり方を学んだ。

公共施設マネジメントについては、ほとんどの自治体が公共施設の「総合管理計画」を策定しているが、「計画」段階からなかなか抜け出せず、「実践」に向かっていない現実がしばしば指摘されている。現在の安全管理に課題はないのか、財源確保についてはどうか、時代に即しているかなど、本村の公共施設管理計画についても今後注視していきたい。



東洋大学客員教授 南氏による講演

消防・防災体制の強化に向かって

上球磨消防署新庁舎を視察

12月11日の定例会閉会后、上球磨消防署新庁舎を全議員で視察した。

特に目を引いたのは、指令室内の「高機能消防指令システム」で、固定電話や携帯電話からの119番通報に対し、通報地点の特定が容易に把握できるほか、周囲に目標物がない山間部では、電柱番号を検索し災害地点を特定できる。また、災害種別・規模に応じた最適な出動隊の自動編成機能も備えており、迅速で的確な初動体制、現場到着までのさらなる時間短縮につながるとの説明があった。

当日は、視察中にも何度か出動指令の放送が流れたが、職務の性質上、機能性の高いシステムの重要性をあらためて実感した。



指令台システムを説明する署員



上球磨消防署新庁舎の外観

【庁舎等建設事業スケジュール】

- 機能移転(新庁舎業務開始) …令和元年10月16日
- 高機能指令台システム整備 …令和元年11月22日
- 旧庁舎等解体工事 …令和2年3月6日まで
- 庁舎等改築工事(訓練棟) …現在協議中
- 庁舎等改築工事(外構) …現在協議中

※令和2年の秋頃に総合落成式が行われる予定



広報特別委員会
委員長 米本 宗徳
副委員長 山崎 隆浩
委員 杉野 久志
尾前 武志

今年の箱根駅伝は、青山学院大が2年ぶりに総合優勝に輝いた。すっかり正月の風物詩として定着したこの大会の創設者が金栗四三である。金栗らが日本人として初めてオリンピックに出たのは、108年前のストックホルム大会。金栗の伝記『走れ二十五キロ』によると金栗は代表になることを固辞した。恩師から、オリンピックに参加する人間がいなければ「日本は永久に欧米諸国と肩を並べることができないのだ」と説得。それに応え悲壮な決意で旅立つ。いよいよ今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開かれる。金栗先人の苦勞を知っていると知らないとは、見方も変わる。本番前の一大イベント、聖火リレーは、3月26日に福島を出発。県内は、5月6日と7日に13市町村を巡る。日本勢の活躍を期待している。本年もどうぞよろしくお願致します。

杉野 久志

編集後記